

ごみ分別のさらなる ご協力をお願いします

【問い合わせ】町環境政策課環境政策グループ ☎ 73-7511

ごみステーションへの不法投棄 マナー違反のごみが増えています！

分別無視のごみ投棄

これまでも不法投棄については、広報などを通じて注意喚起を行ってきましたが、山林や河川敷地、道路などへの不法投棄に加え、最近ではごみステーションへの不法投棄が後を絶ちません。



全く分別がされていない悪質なケース

町では、収集員が違反シールを貼り注意喚起を行っていますが、何もかも同じ袋に入れ、全く分別されていない袋が多く目立ちます。

気温が上昇するこの季節にとつて、悪臭や虫の発生源ともなり、非常に環境衛生上好ましくありません。周辺の方ばかりでなく、町内会・自治会の皆さんも大変苦勞されています。

ごみの分別は、一人ひとりのご理解とご協力しかありません。分別の徹底にご協力をお願いします。

違反シールが貼られた 場合の対処方法

自分の出したごみ袋に違反シールが貼られた場合、一度持ち帰っていただき、再度分別をお願いします。また、地域にお住まいの方以外のごみ（通りすがりのポイ捨て）が発見された場合は、速やかに町環境政策課に連絡してください。ごみを調査し、場合によっては警察へ届けます。

【町内会・自治会の皆さんへ】

町では、地域の美化運動の際に使用されるごみ袋の無償配布を行っています。枚数をご連絡いただければ、ご自宅へお届けしますので、町環境

政策課までお問い合わせください。
【衣類・タオル類の分別のお願い】
衣類・タオル類の分別徹底にご協力ありがとうございます。衣類・タオル類を出す際は、他のごみと混ぜずに「炭にできるごみ袋（茶色）」に入れて出してください。回収された衣類（古着類）・タオル類は1kgあたり1円で売却しており、その後工業用雑巾として、生まれ変わります。

堆肥

「栗肥土」好評販売中！

栗肥土は、役場、角田農村環境改善センター、南部公民館で随時販売しています。是非、ご活用ください。

【価格】
10kg 袋 300円

議会の動き

第6回栗山町議会臨時会において
次の議案が審議されました。
(7月10日招集)

議案

▼平成27年度栗山町一般会計補正予算（第4号）
歳入歳出予算に7102万円を追加し、総額を83億5731万円とするもので、補正の内容は、栗山町空き店舗活用支援事業補助金などに係る補正です。



こんにちは！

私たちが栗山青年会議所です。④

「頼もしい」と期待される存在に

栗山青年会議所の中村隆浩です。昨年の7月に入会し、まだ1年と経験は浅いのですが、今年度、総務・広報・研修委員長という大役を仰せつかり、日々青年会議所活動を楽しく、またメンバーとたくさん語り合う事ができ、充実させていただいています。



私は、由仁町民で農業者という青年会議所メンバーの中であまり共通部分が少ないのですが、このまちの基幹産業でもある農業を業種としていきますので、皆さんの事業に生かされるよう、皆さんとともに活動しています。

その中で、今年6月に私の担当事業でもある通常例会会員研修事業を開催し、このまちにいる同世代の若者とともに研修と意見交換を行いました。

研修内容は、今、国が進める政策の中で非常に理解が難しく、また私たちにも影響の大きい「TPPの現状とまちづくりを考えよう」です。北海道職員の担当者を招き講演をしていただき、その後グループディスカッションを行いました。

実施して何よりも感じたことは、この研修事業にそちら南農業協同組合青年部、町4Hクラブ、町青年団体協議会と私たちを含めた4つの団体が一つの場所に集まり、このまちの事や私たち同世代のまちに対する想い、そして、まちの理想を語り合い、楽しく共感させていただけた時間になったことです。



このまちにはたくさんの若者がいて、自分たちが理想とするまちにしなければ定住化に結びつかない、少子化対策も私たちがから考えて行くべきと感じました。

これからも、このような若者たちの研修会や意見交換などを行い、地域住民の方々に「若者は頼もしい」と期待される存在でありたいと思います。

これからも栗山青年会議所をよろしくお願いします。



【問い合わせ】
町保健福祉課
健康推進グループ
☎ 73-2256

「こんなときは...」
『定例健康相談日』のご利用を！
「最近血圧が気になる」「自分の体脂肪・体内年齢が知りたい」「バランスの良い食事を知りたい」「子どもの身長や体重が増えているか確認したい」「健診・検査を受けたけれど結果の見方がわからない」など、お悩みの方はいらっしやいますか？

定例健康相談	
場所	日時（祝日除く）
いきいき交流プラザ (サンタの笑顔) 保健師・管理栄養士による健康・栄養相談	毎週月曜日
	9:30~11:30
総合福祉センター 「しゃるる」 保健師・管理栄養士による健康・栄養・育児相談	毎週月曜日
	13:00~16:00
南部公民館 保健師による健康相談	第1・第3金曜日
	9:30~11:30

町では、上表の日時・場所で保健師・管理栄養士による各種相談を行っています。予約なしで、誰でも利用することができますので、お気軽にご相談ください。
指先で簡単健康チェック！
『血管年齢』を測定してみませんか？
総合福祉センター「しゃるる」の定例健康相談日で、新たに「血流測定機器 B C チェッカー」を導入しました。



測定時間は、20秒程度です

指先を測定器に当てるだけで加速度脈波、すなわち血管年齢（末梢血管の柔軟性）を測定できます。血液循環からみた健康チェック、運動効果による血液循環機能向上の確認ができ、簡単に測定できる新しい健康指標として注目を集めています。
*定例健康相談日のほか、希望により各地域の会館などで実施している、保健師・管理栄養士による健康講話などに持ち出し可能ですので、是非ご利用ください。

がん検診！
命にかかわる大事な検診です

がん検診は、進行していない初期の段階でがんを発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減少させるために行われています。がんは、初期の段階で発見できれば、治る確率も高くなります。しかし、初期の段階では明らかな症状がないため自分で気づくことが困難です。そのため、定期的に検診を受けて、がんを早期に発見することが重要です。

がん検診を受ける機会として、下表の方に対し、「がん検診無料クーポン券」をお届けしています。ただし、平成27年4月20日現在、栗山町に住民票のある方が対象となります。

【対象となる検診】

大腸がん・子宮頸がん・乳がん

【無料クーポン券の有効期限】

平成28年3月31日まで

お早めに受診しましょう！



献血のお知らせ

【日程】8月25日(火)

【場所・時間】

- 松原産業(株) 午前10時00分～11時00分
- 栗山警察署 午後0時30分～2時00分
- 栗山赤十字病院 午後2時20分～4時30分

検診名	年齢	生年月日
大腸がん (男性・女性)	40歳	昭和49年4月2日～昭和50年4月1日
	45歳	昭和44年4月2日～昭和45年4月1日
	50歳	昭和39年4月2日～昭和40年4月1日
	55歳	昭和34年4月2日～昭和35年4月1日
	60歳	昭和29年4月2日～昭和30年4月1日
子宮頸がん (女性)	20歳	平成6年4月2日～平成7年4月1日
		平成25年度にがん検診無料クーポン券の対象になった方のうち、クーポン券を利用していない方
乳がん (女性)	40歳	昭和49年4月2日～昭和50年4月1日
		平成25年度にがん検診無料クーポン券の対象になった方のうち、クーポン券を利用していない方

保健福祉のコラム



養護老人ホーム泉徳苑 栄養士 山内真紀子

夏場が怖い！食中毒

これからの季節、気を付けたいのが食中毒ですね。食中毒は、主に細菌やウイルスによって汚染された食品を食べることによって起こります。

食中毒の原因菌は生鮮食品や調理器具、皮膚などに付着しており、特別な発生源によるものではありません。

食中毒を招く細菌は、一般的に高温多湿での繁殖が盛んであり、特に夏場は注意が必要です。近年では、腸管出血性大腸菌「O-157」やノロウイルスなどのニュースが世間を騒がせ、夏場はもろろんの

こと、他の時期でも気が抜けない状況です。

食中毒を起こしやすい食品としては、生鮮食品が第一にあげられます。肉類や魚介類、卵およびその他の加工品などで、特に加熱していない料理に多く見られます。

食中毒を予防するには

食中毒というと、飲食店などのイメージもありますが、食品管理や調理の方法次第では自宅でも起こり得ます。特に暑い夏においては細菌が増えやすくなります。

食材の買入れ物の順番に注意する、日々使用するまな板・包丁などの調理器具の洗浄・消毒をするなど少しの工夫で食中毒のリスクを下げることもできます。また、食事の前には手をきれいに洗うことも大切です。『食中毒予防の三原則』を日々の生活で心掛け、楽しく夏を過ごしましょう。

【食中毒予防の三原則】

- ① 食中毒の原因をつけない
- ② 食中毒の原因を増やさない
- ③ 食中毒の原因をやっつける

【卵・肉・魚から感染する細菌】

細菌名	主な原因食品	対策
サルモネラ菌	○牛や豚、鶏などの食肉 ○卵類	●肉類や卵は加熱調理し、生肉を食べない ●卵を保管するときは1個1個を離して保管 ●ネズミや昆虫・害虫の駆除
カンピロバクター	○食肉やその加工品（主に鶏肉） ○飲料水	●肉類は加熱調理、飲料水は煮沸殺菌 ●生肉と調理済み肉類を分けて保存
腸炎ビブリオ	○夏場の魚介類 ○生で食べる刺身や寿司	●魚介類は低温管理 ●魚介類は真水で洗い、できるだけ加熱調理 ●魚介類と他の食品との接触を避ける

【人によって感染が広がる細菌】

細菌名	主な原因食品	対策
ウエルシュ菌	汚染された肉や魚介類を使った蛋白質食品（特にカレーやスープ）	●カレーやスープを調理する時はよくかきまわす ●調理済み食品を室温で放置しない ●冷凍肉は完全に解凍してから調理 ●調理済み食品はすばやく冷却して冷蔵庫に保存
ブドウ球菌	○おにぎりや寿司 ○サンドイッチ	●手荒れや傷のある人は、食品や調理器具に直接触れない ※マスク・帽子・薄いゴム手袋などを着用して調理 ●残った調理済み食品の再加熱利用を避ける ●手洗い、手指の消毒

※栗山町地域医療協議会のご協力により、「リレー方式」で連載しています。



地域交流イベント大賑わい 遊歩道の駅つぎたて

まちなかカフェ事業を展開する遊歩道の駅つぎたてで「サマーフェスタ 2015」が7月10日に開かれました。同施設は4月にオープン。社会福祉法人栗山ゆりの会が運営し、高齢者や児童、障がい者などが集う地域交流スペースとなっています。同法人の橋一也理事長は「このイベントを通じて、より多くの方に遊歩道の駅を知ってもらい、気兼ねなく過ごせる憩いの場となってほしい」とあいさつ。集まった約150人は多世代での交流を楽しみました。



話し手の気持ちに寄り添う 傾聴を学ぶ講演会

7月2日、カルチャープラザ「Eki」で講演会「人の話を聴くには一傾聴とは」が開催されました。臨床心理士の河岸由里子さんを講師に招き、町民57人が参加。相手の気持ちに寄り添って話を聴く「傾聴」について学びました。河岸さんは「相手を認め、話しやすい雰囲気を作るのが大切です」と呼びかけ、参加者は早速、2人1組になり傾聴を実践。「相手のよいところを5つ見つけて褒める」などのテーマに沿って演習を行いました。

現場での奮闘ぶりを発表 介護福祉学校で実習報告会

町立北海道介護福祉学校で7月21日と22日の両日、特別養護老人ホームなどで実習した成果を発表する報告会が開かれました。2年生47人が、5月11日から6月23日まで、老人ホームや介護老人保健施設に向き、認知症などの高齢者介護や障がい者支援を通じて学んだことを発表。また、「コミュニケーションの重要性」「求められる介護福祉士像」といったテーマごとの討論も展開しました。生徒たちは現場で感じたことをもとに、活発な意見交換を行いました。



笑いで健康に 笑いヨガ教室

笑いヨガの呼吸法を組み合わせた笑いヨガ教室が6月23日、カルチャープラザ「Eki」で開かれました。笑いヨガ・ティーチャーである植田美之さんの手ほどきで約50人が体験。「笑うことで体と脳に酸素が多く取り入れられ、免疫力も高まります」と植田さん。参加者は歌ったり、手を打ったりしながら大声で笑い合い、会場には笑顔の輪が広がりました。笑いヨガ教室は町内4カ所ですべて12回を予定。詳しくは事務局(☎73-2256)までお問い合わせください。

パンで広がれ福祉の輪 ワークセンター栗の木パン祭り

障がい者が働く町内のパン工房ワークセンター栗の木が7月18日、5月の新店オープン後初のパン祭りを開催しました。パン祭りを前に、工房で坂本武理理事長が「ふすまパンで経済的自立を」と題し講演。自信と誇りをもって障がい者が働ける場を作ろうと東奔西走した13年を振り返りました。ラッキー向いの祭り会場ではパンの特売やステージイベントが行われ大賑わい。300個用意したパンは午前中で完売となりました。



晴天のもと広がる笑顔 めぐみ幼稚園運動会

町内運動会シーズンの最後をしめくくる、めぐみ幼稚園の運動会が7月12日、ふじスポーツ広場で開催されました。直径約6メートルの円形の布の端を持ち、タイミングを合わせて動かす「プレイバルーン」や軽快な曲に合わせた「お遊戯」など全18種目が行われ、園児たちは練習の成果を発揮。かわいらしい姿に、観客席からは大きな声援と拍手が送られ、青空のもと、たくさんの笑顔があふれました。

理想の家を実現するために 若者・子育て世代の町民講座

若者・子育て世代の町民講座「はじめての家づくりと住宅に関するお金の話」が、6月25日に総合福祉センター「しゃるる」で開かれました。注文住宅アドバイザーの大糞一幾さんとファイナンシャル・プランナーの星洋子さんが講演。「満足できる家づくりを実現するためには、どのようにして家を建てたかというプロセスが重要」「人生で一番高い買い物ですが買ってよかったと思えるように、資金計画など手間を惜しまず自分たちで工夫しましょう」と呼びかけました。



手づくりの看板を寄贈 朝日4丁目町内会

朝日4丁目町内会が、協働のまちづくりの一環として朝日ふれあい公園にある入口看板を更新しました。2カ所ある公園の入口看板が経年劣化などで壊れていたことから、古瀬一芳会長と荒木靖允副会長が手作りで作成。7月11日、寄贈式が朝日ふれあい公園で行われました。古瀬会長は「憩いの場である公園の看板ですから、このままではいけないと思い荒木副会長とともに作りました。今後も、自分たちでできることは積極的にしていきたいと思っております」と話していました。